

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和8年度病虫害発生予報第6号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 中央普及支援センター 病虫害防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.l
-----	--

病虫害発生予報第6号 (予報期間：9月上旬～9月下旬)

予報内容

大 豆

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

ハスモンヨトウの発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

果 樹

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

野菜・花き

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

軟腐病の発生は**やや多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。予防防除を徹底する。

オオタバコガの発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

※ 病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止を徹底する。

---気 象 予 報---

1 か月予報 （令和8年8月20日付け 新潟地方気象台）

予報期間 8月22日～9月21日

[確率予報]

気 温	低い	10 %、	平年並	10 %、	高い	80 %
降 水 量	少ない	40 %、	平年並	40 %、	多い	20 %
日照時間	少ない	30 %、	平年並	30 %、	多い	40 %

[概要]

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・湿った空気の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。
- ・8月22日（土）～8月28日（金）
天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・8月29日（土）～9月4日（金）
天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・9月5日（土）～9月18日（金）
天気は数日の周期で変わるでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適
要因、(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 大豆の病害虫

ハスモンヨトウ

発生時期	8月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

フタスジヒメハムシ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 子実肥大期の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か少ない (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期に防除を実施する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2 果樹の病害虫

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

リンゴ褐斑病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

果樹カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯への誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 園内への侵入が確認され次第速やかに薬剤防除を行う。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か少ない (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈りとった後に防除する。

3 野菜・花きの病害虫

軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ネギ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か低い (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

ネギハモグリバエ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アザミウマ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナジラミ類

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナガ (アブラナ科：ダイコン、ブロッコリーなど)

発生時期	増加期は9月上旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。